

○生駒 芳子(いこま よしこ)



ファッション・ジャーナリスト／アート・プロデューサー／
内閣府消費者委員会委員／一般社団法人日本和文化振興プロジェクト理事／
文化庁文化審議会委員／日本エシカル推進協議会副会長／
レクサス匠プロジェクトアドバイザー／国連 WFP(国際連合世界食糧計画)顧問／
東京 2020 ブランドアドバイザーグループ委員／
東京 2020 オリンピック・パラリンピックマスコット審査会副座長／
WEF(Women's Empowerment in Fashion)理事

兵庫県宝塚市生まれ。祖母は三重県伊賀市(旧阿山町)出身。VOGUE、ELLE の副編集長を経て 2008 年より「マリ・クレール」の編集長を務め、独立。ファッション、アート、デザインから、社会貢献、クール・ジャパンまで、カルチャーとエシカルを軸とした新世代のライフスタイルを提案。地場産業や伝統産業の開発事業、地域開発など、地域創生に数多く取り組む。2015 年より文化庁日本遺産のプロデューサー事業を手掛ける。2018 年より、伝統工芸をベースにしたファッション&ジュエルブランド「HIRUME」をスタートさせる。三重県では、みえ産業振興戦略のアドバイザーボード、三重テラスクリエイティブディレクターを務める。

○沙里(さり)



かほり
——
とともに



2011 フレグランスコンテスト環境大臣賞受賞

2015 ミラノ万博では三重県の香りを制作

2017 ちそう菰野にて四季のかほりを調香

2018 exhibition 丹生 lights gallery

2019 solo exhibition 星筥 gallery crossing

2019 調香アトリエを定期的で開催 hug style gallery

2019 浄める 癒やす lixil ginza gallery

2020 松屋銀座 solo exhibition

2020 長野に蒸留所を準備中

かほりとともに、調香師。三重県出身。幼児教育に7年間携わりながら、イギリスでのホスピス、チルドレンズホスピタルでのボランティアを通じて、香りが心や身体に、深く響くことを実感。その後、英国のIFA アロマセラピスト取得。それぞれの精油が音のように聞こえたり色が浮かぶ感覚の神秘から、調香の道へ。イメージフレグランスコンテスト2011では、伊勢をテーマにした作品「杜の響」が環境大臣賞受賞。かほりとともに、草花や樹、鉱物や果実など、あらゆる地球の恵みからの抽出。個々に合わせ、調香をしている。眠っていた感情や感覚、本能を呼び醒ます。そのような香りの本質と記憶をさぐる実験を、アーティストたちと重ねている。

○沖中 祐介(おきなか ゆうすけ)

沖中造林株式会社 専務取締役

松阪市飯高町内を中心に約 1,000ha の山を管理し、創業時から現在に至るまで、波瀬地域の伝統的な林業に取り組んでいる沖中造林株式会社の6代目。創業 140 年の節目に、林業の大切さや地元木材の良さを広くPRするため、社有林から樹齢 100 年のスギを伐り出し、手彫りでカヌーを製作。

木材や木に関連する業界に携わる 45 歳以下の青壮年層で構成された団体「松阪地区青和会」の役員として、木材産業の発展、普及に努めている。

●沖中造林株式会社 <https://okinakazourin.com/>

○前川 仁志(まえかわ ひとし)

もくいち・マルゴ株式会社 営業部長

飯高町で寺社仏閣用木材、建築材、一枚板等の製造を行う木材加工・販売会社「木の考房 もくいち／マルゴ株式会社」の営業部長。

天然木材の魅力を手軽に伝えることを目的とした生活雑貨用ブランド「moku(モーク)」、良質な木材を育んだ飯高の自然に触れることができる自然体験プログラムやアウトドア商品「moku alfresco(モーク・アルフレスコ)」を展開し、木材製品の魅力を発信している。

●もくいち・マルゴ株式会社 <https://mokuichi.jp/>

○淵上 佑樹(ふちがみ ゆうき)

三重大学大学院生物資源学研究科 准教授

紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林准教授。

2004 年京都府立大学農学部森林学科卒業。NPO 法人京都地球温暖化防止府民会議(京都府地球温暖化防止活動推進センター)勤務を経て 2016 年から現職。

木材が適切に利用される社会づくりを目指して、木材の利用を進めることが地球環境や地域経済に与える影響の定量化等について研究。